

テント一週一文（め）—— 渡辺ひろ子さんの通信 「なずな」「づれづれ草」

（承前）

西山進さんの「漫画しんぶん」103号を読み終えた女の人（この人はこの日のテントを立てる時に「原発いらぬ」の黄色い旗をテントの脚に結び付けていたので以下「旗」さんとします）はテントの外で机の上にテントへの賛同署名などを並べる作業が済んでテントに入ってきた女の人（以下「机」さん）に「これ見た？」と西山さんの新聞を渡します。

机：あら「漫画しんぶん」！久しぶりね。

旗：そうね。100号を見たのが去年の8月だったかしら。

机：あの頃は国連での核兵器禁止条約採択が大きなニュースになっていて、西山さんの100号は核兵器と原発について書いてあったわ。でもこの103号には核兵器反対も反原発も出ていなくて……

旗：アベ政権への怒りが大きくて、反原発にまで気が回らなかったんじゃない？ 私は西山さんのファンだから、西山さん90歳の記念号、この103号ね、を見ることができてよかったわ！ そういえば、ファンで思い出したわ。私は渡辺ひろ子さんという人のファンでもあるのよ。

机：渡辺さん？

旗：覚えていない？ 「一週一文（ほ）」で紹介されていた人よ～。

http://npg.boo.jp/kieyuku/week_repo/170619kuriyama.pdf

机：思い出したわ。築城基地反対を長いことやっている人ね。

旗：そう。その渡辺さんからテントに新しい通信が送られて来ていて……。どこだったかしら、さっき見かけたのに。

体の後と前に脱原発のモットーを書いた大き目のゼッケンを着けて自転車でテントに30分かけて手助けに来ている男の人（以下「自」さん）が、読んでいたB4の紙を「これ？」と言って「旗」さんに渡します。

旗：ア、これこれ。有り難う。ちょっと見せてね。

自：どうぞどうぞ。

机：渡辺さんからテントに送って来ているのですか？

旗：テントに、って言うか、村長さんにね。一つは「平和といのちをみつめる会」の通信「なずな」。これは296号ね。毎月1回として、わ～もう24年も出しているんだ！ こちらは「私信 づれづれ草」88号。

机：両方とも渡辺さんが出しているの？

旗：私信には「発行者」とあり、会の通信には「発行責任」とあるので、区別はしていると思うわ。（「自」さんに）あなた読んで、他に何か気がついた？

自：ありますよ。通信は横書き、私信は縦書きです。

旗：それは形式でしょう。内容では？

自：ありますよ。通信には人物の写真、私信には手書きで草のイラスト。

旗：ア～、だんだん頭が痛くなってきた。ですからね……。先号で「自」さんは風にあおられるって言っていましたよね。風も「自」さんを避けて通るんじゃない？

自：いいえ、モロに吹き付けてきますよ。

机：自分で両方読んでみるわ。読めば判ると思う、多分。

旗：そうね。そちらの方が早いわ、きっと。通信には集会やデモの案内が載っているんだけど、築城基地反対座り込みは次回の6月2日で30年目になるんだって。渡辺さん自身がこの案内に書いていて、毎月1回座り込みをやって30年よ。

机：このテントも4月20日で満7年だけど、その4倍ね!

旗：会の通信からも私信からも直に感じられるのだけれど、平和を守ろうとしない政治、市民の生活といのちを見向きもしない政権への怒りが30年間の座り込みを支えているのよ。それは西山さんと全く同じ怒り。

机：その心情があるから、脱原発という表現は出ていないけれど「脱原発テント」の「テント一週一文」で紹介するという回路?

旗：それもあんだけど、二人とも「暗闇の思想」に支えられているのよ。

机+自：なんですか、それ?

旗：いま読んでいる本があってね、「論楽社ブックレット 4」松下竜一著『生活者の笑い、「生」のおおらかな肯定』というタイトルの本なのよ。今持っていたと思うけど、ちょっと待ってね。

「机」さんはバッグの中を探している「旗」さんを横目に見ながら、「自」さんに「何か楽しくなりそうなタイトルね」と囁きます。「自」さんは「何というタイトルでしたっけ?」と賛同以前の質問を口にします。

机：セイのおおらかな肯定、って言っていたわ。

自：性のおおらかな肯定、ですかね。

机：そうだと思うわ。楽しくない?

「自」さんが何か囁こうとして「机」さんの方を向いた時に、「旗」さんは「あった、あった。これよ」と冊子を取り出し、「暗闇の思想について書いてあったのは後ろの方だったと思うけど……」と意気込みます。

机：もう一度、本を見せていただけませんか? タイトルが知りたくて。

旗：いいわよ。知ってた?

「机」さんは「旗」さんには「いえいえ、知りません。ちょっと気になることがありますして……」と答え、「自」さんには「考え違いをしていたわ、生のおおらかな肯定、だったわ」を囁き、「自」さんは「残念でしたね」と囁き返します。

「旗」には何のことか判りません。「もういい?」と冊子を受け取ってページをめくります。

旗：ここだわ、88ページ。暗闇の思想って「明るさとか発展とか開発とかを疑いもなく善とするような、虚妄の電力文明への抵抗」なのよ。

机：エ? 今は「明るさとか発展とか開発とかを疑いもなく善とするような、虚妄の電力文明への懐疑」は常識じゃないんですか?

旗：この本は1993年だから……25年前の出版ね。でも松下竜一さんの『暗闇の思想を』っていう本は1974年に出版されているのよ。さらにその20年前、45年前だわ。

自：45年を閲して松下竜一的感性が常識になった、っていうこと?

机：松下竜一的思考が常識と化すまでに45年という時間が必要だったんじゃないの?

旗：この暗闇の思想が常識になっているとしても、その常識は思惑とかお金とか地位とか権威とかに丸め込まれてしまっていて、それがネ、生かされていないのよ。常識が実践されていたら「脱原発」のテントは不必要でしょう？

さっきは「自」さんの答えを聞いて頭が痛くなって、今は「自」さんと「旗」さんへ答えて、自分や周囲を見回していたら頭が痛くなってきたわ。

自+机：すみませんね。

「旗」は「あなたたちが謝ることはないのよ。いま口にした「自分や周囲」の「周囲」はあなた達を指しているわけじゃないから」と言って、テントの前の九電本社のビルを見上げました。

「自」さんは「旗」さんに「渡辺さんの通信をもう一度ゆっくり読んでみるから、静かにしていてね」と言い、「机」さんには「ハイこっちを読んで」と私信を渡します。

旗：判りましたとも。

机：判りました。

と、テント内では静かに春の日の時間が流れ始めましたが、外では風が少し強くなってきました。

(文責 栗山次郎)

2018年4月16日公開

参照：「平和といのちをみつめる会」通信「なずな」296号

http://npg.boo.jp/kieyuku/week_repo/180416nazuna296.pdf

「私信 づれづれ草」88号。

http://npg.boo.jp/kieyuku/week_repo/180416watanabe.pdf